

第4回初期発生学セミナー

## 細胞分化に伴う クロマチンリモデリング情報から探索する治療標的

今井祐記 教授

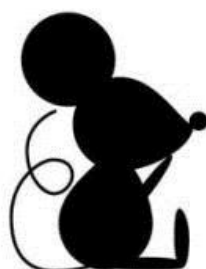
愛媛大学プロテオサイエンスセンター  
大学院医学系研究科学術支援センター

2015年8月19日(水)

16:30~17:30

藤井節郎記念医科学センター 4階セミナー室

細胞分化の過程においてゲノムワイドに起こるダイナミックなクロマチンリモデリングに着目し、破骨細胞分化の分子メカニズムの解明を試みた。細胞分化を規定する遺伝子の発現は、クロマチン構造が“開いた”状態になり、この現象は転写因子の結合により制御される。この開いたクロマチン領域は、DNase I 高感受性領域(DNase I Hypersensitive Site: DHS)と呼ばれており、DHSをゲノムワイドに検出するDNase-seq法を応用し、破骨細胞分化初期段階のDHSのゲノムワイドな変化を探索し、遺伝子発現変動データとの統合的解析を試みた。その結果、破骨細胞分化を制御する既知の転写因子に加えて、新規の転写因子群が同定された。このような新たなアプローチによる骨代謝における生体内機能解明や、骨疾患に対する創薬に繋がると期待できる。



お問い合わせ先

藤井節郎記念医科学センター・初期発生研究分野

竹本龍也(内線 7915 takemoto.tatsuya@tokushima-u.ac.jp)